

平成28年1月 定例教育委員会

日 時 平成28年1月18日（月）
9時00分～

場 所 市役所11階 研修室

出席者

（教育委員）

永元教育長 久田委員 深町委員 合田委員 内海委員

（事務局）

久家教育次長 百津教育次長兼学校教育課長 友永総合教育センター長兼総合教育センター課長 大藤教育委員会総務課長 金子教育センター所長 吉田学校保健課長 川嶋図書館長 犬塚青少年教育センター所長 鶴田スポーツ振興課長 教育委員会総務課徳永主任主事

欠席者

（事務局）

小田社会教育課長 吉住公民館政策課長

傍聴者 0名

内 容

(1)平成27年11月分会議録の確認（当日配布）

(2)教育長報告

(3)議題

なし

(4)協議事項

なし

(5)報告事項

- ①平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について
- ②第48回郷土研究所の公開発表会について

(6)その他

次回開催予定

【永元教育長】

只今より、1月の定例教育委員会を開催いたします。まず最初に平成27年11月分の会議録の確認ということですが、発送を失念しておりまして大変申し訳ありません。

机上に置いておりますので、ご一読いただきニュアンス等違いましたら補佐までご連絡いただければと思います。

12月末から1ヶ月経過いたしました。私を中心としました皆様の活動状況について報告いたします。12月21日に定例教育委員会を開催しておりますので、それ以後になります。12月議会は可決になりありがとうございました。特に広田小学校については教育委員の方にもおいでいただき、意見を述べていただき大変助かりました。ありがとうございました。この件につきましては後ほど報告したいと思います。

◆ 教育長報告

- 12月22日 広田中学校 学校訪問
叙勲祝賀会
- 12月24日 地域情報化推進委員会臨時会
 - ①老朽化箇所のインフラ整備
 - ②各教室に無線LAN用のアンテナ設置、将来タブレットを使用可能とするための整備。（財政上の都合により4年間計画）上記教育委員会の方向性を説明
情報セキュリティ委員会
USB等情報物対応（原則禁止）紛失は学校教諭が多いとのことで、家に持ち帰るのが原因
- 12月25日 ベネッセ来庁
特に英語教育（学習効果）のお話をされました。英語は言語としてのツールであり、日本人としての心、教養がなければ相手とのコミュニケーションは成り立たないとの話をされました。
- 12月28日 御用納め
- 1月 4日 仕事始め式
- 1月 5日 小中学校校長会
義務教育の間に歴史、基礎的学力向上をしっかりとやっていただくようお願いした次第です。
- 1月 6日 財務部長ヒアリング（14日内示）
- 1月 8日 歯科医師会新年会
- 1月10日 小柳ロードレース
成人式典
- 1月12日 社会教育委員会・公民館運営審議会 合同会議
受益者負担について使用料の減免 素案どおりの答申
- 1月13日 経営戦略会議（市民会館案件）
- 1月13～15日 新年度に向けた教職員、校長、教頭等異動ヒアリング開始
- 1月16日 学校給食青果物協定委創立50周年式典

◆教育長報告に関する質疑・意見等

なし

◆議題

なし

◆報告事項

【永元教育長】 それでは報告事項に移ります。報告事項①百津次長お願いします。

①平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について

【百津学校教育課長】

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」毎年国の方から実施をしているところでございます。通常でしたら10月前後には教育委員会の方へ報告することが通年でございました。今回かなり伸びております。その理由といたしましては、本来3月末に学校へ調査の案内を出しまして、6月ぐらいに締切って、県がとりまとめをし、10月前後に文科省がまとめの報告をするという流れでございます。10年ほど前までは8月のお盆に文科省が出しておりましたが、今回いじめ問題等での一部見直しを8月下旬に国のほうから指示がありました。まずは、15年ほど前に鹿川君事件（中野・富士見中学）といういじめがあり、いわゆるお葬式ごっこ、マットでの圧迫死事件がありました。いじめの定義が学校内ということから学校内外を問わないという定義に変更がありまして、そこで数がまた多くなったりしたところがありました。一連のいじめがあり大きく考えなければいけないのが、県によってのいじめの認知の格差がございました。と、申しますのが、学校、国の調査では生活基本調査がございまして、これは教育委員会がおこなっている分ではないのですが、不登校の数は両方でやってまいりますので、これは確実に各学校の方へ全国降ろしているのですが、暴力行為とかいじめの件数は県教委がまとめて国へ提出するものですので、県によっては直接学校へ降ろした数があがっているのではなく、県に報告された分を国へ報告をしている県がございまして。都道府県別いじめの発生、暴力行為等のページを見ていただきますと、かなりの格差がございまして。10何倍20倍とかいう格差があり、そこをどうにかしなくてはいけないというのが国の方にもあったのではないかとということが一つのおおきな要因です。お隣の県は非常に少なくいじめも、暴力もない、しかし、不登校では長崎県と同じくらいの数があるという状況です。しかし、調査をしてふたを開けてみると変わっていない。国はわかっているのです。再調査をしないからという言い方をしたのですが。長崎県も15年ほど前まではそういうシステムをとっておりまして、いきなり数が増えたものですから、何故だと文科省から追加調査がきたりもいたしました。それと短期間で解消した分も入れてください、対人関係のトラブルもいじめが顕在しているのではないかと再調査しなさいという依頼があり、今回文科省のほうから12月に入りまして報告がまいりましたのでその分も併せた形で報告しております。資料の①暴力行為②いじめ③不登校についての報告です。①暴力行為につきましては、佐世保市を見ていただきまして、対教師暴力等が増えて、対人暴力、対教師暴力が中学校の中で増えております。対教師暴力等につきましては吉井中学校の生徒が、同じ生徒が繰り返しということで数が増えているところですが、教室で教師の指示を聞かなかつたため、生徒に注意をしたところ、反抗的な態度で教師に飛び蹴りをしたりしたことがありました。吉井中学校は私たちも最重要ということでの認識をもっておるところですが、減ってはきていないということです。何人かの生徒がまだ厳しい状況にあるというのが現状です。②いじめにつきましては、小学校の数の認知件数が増えており、中学校につきましては人間関係が

きっちりと決まってまいりますので、そう大きな数の変動はないという認知件数でございました。一番多いのはひやかし、からかい、悪口です。いじめというものは本人がいじめと認識したならば、それはいじめであるという定義でありますので、数が上がったと判断しております。③不登校については、出現率につきましては全体の中で小学校は0.25、中学校は3.31、年間30日以上の不登校児童の推移ということですので、やはり厳しい状況が続いているというのが佐世保市内の現状ではないかと考えている次第です。以上が結果報告でございます。なお、問題行動等の等は不登校のことを指しております、不登校は問題行動ではないのではないかとこの国の認識の考え方もございまして、等となっている次第です。

【永元教育長】

ありがとうございます。今、百津次長から報告がありましたが、この件についてご意見等ございましたらよろしく申し上げます。

【深町委員】

質問をよろしいでしょうか。この認知件数についてですが、26年度の121件というのは本人からの申出なのか、調査の中から浮き上がってきた数なのかどういった数なのかをお聞きします。

【百津学校教育課長】

結論から申し上げますと全てを含んでおります。学校では月に1回程度は生徒たちにアンケートを行いますので、その中で浮き上がってきた数でございます。本人の訴え、保護者の訴え、あるいは教師が見つけたもの等全てが含まれております。解消率はしっかり解消はしているようでございますけど、わたしは増えているからひどいということではなくて、それだけのアンテナをしっかりとらなければならぬと考えています。大津の事件がまさしくそういうところございまして、先生方はあれは冗談だという認識があって、あのような大きな問題になりましたので、我々も校長研修も当然のことながら、各生徒指導の研修の中でも、しっかりアンテナを高く持つことが必要であると繰り返し指導しているところです。多かったので悪いということではないという認識を持っている次第です。以上です。

【久田委員】

まさしく百津次長がおっしゃられたことも発言しようと思っておりました。どうかすると、数を抑えて報告して自分の学校にはそんな問題ないと思われないという意識が働いたときに大きな問題が生じてくる、土壌が生まれていくと。管理職の研修会でもおっしゃっていただいているし、それぞれの担任教師自身にそのような意識が芽生えておけば早く気付ける、解消できると思います。同じ1件でも重みが違う事例があるのですから、百津次長がおっしゃられたことは非常に大切なことだと思います。

【永元教育長】

少ないに越したことはないのですが、予防するためにアンテナを張ることが重要だと思いますので、よろしく申し上げます。

【百津次長】

ありがとうございます。やはり集団の中にいますので、いろいろなトラブルを経験しながら大人になっていくというのもひとつの事実ではないかと思っております。ただ、いじめということに対しましては厳しく指導していかなければならないと思っております。教育長のおかげでアイチェック等を今年度させていただくことになっております。各学校現場でも学校訪問でもアイチェックはどうですかと聞いてみると非常に良いと、子供たちの状況がわかってくるとの意見があり、あの中から拾い上げたものもあるという報告もあっております。有効な使用法を今後研修等々でも行っていきたいと考えております。

【永元教育長】

この件については、ずっと続いていく問題でありますので折に触れて報告を百津次長お願いいたします。

【百津学校教育課長】

はい、わかりました。

【永元教育長】 続いて、報告事項 2 番目の第 4 8 回郷土研究所の公開発表会についてをお願いします。

②第 4 8 回郷土研究所の公開発表会について

【川嶋図書館長】 報告事項②第 4 8 回郷土研究所の公開発表会についてでございます。図書館には佐世保についていろいろなことを勉強している機関として、佐世保市郷土研究所を設置しております。研究員、研究客員あわせて 14 名が活動しております。公開発表は、この 1 年かけて研究した結果を発表する場として、研究員、研究客員が行うものです。今年で 48 回目になります。今年度は資料のとおり 2 月 13 日に 2 人の研究客員が発表を行い、発表のテーマは資料のとおりです。毎年専門家の視点でとらえた感心する内容も含まれておりますし、また、専門的知識が無くても十分に理解できる内容でありますので、是非ご来館いただきたいと思っております。これに伴う広報、PR ですが、広報させば、報道機関へのお知らせ、図書館ホームページ、図書館だより、目につく場所への案内掲示を予定しております。

【永元教育長】 ありがとうございます。

【内海委員】 午後 2 時から何時まででしょうか。

【川嶋図書館長】 おおよそ 4 時まで、2 時間を考えております。

【永元教育長】

2 つ発表があって、入れ替わりがありますので自分の興味のある方のみを聞かれることもできます。私も毎年出ていますがおもしろいです。

【久田委員】

この行事と関連してお尋ねをいいですか。吉田学校保健課長にお尋ねしますが、13日は歯科保健研究会と時間がちょうど重なっていますよね。

【吉田学校保健課長】

申し訳ございません。13日はよい歯の表彰・子ども期歯科保健研究大会を予定しております。

【合田委員】

13時～16時10分です。コミセンです。

【永元教育長】

毎年だいたい重なります。申し訳ありませんがよろしく申し上げます。今回は報告事項がここに挙げておりませんが、たくさんございますので、順次報告いたします。

【大藤総務課長】 先般の 12 月議会の予算、広田小学校校舎の実施計画、委託料 1200 万の審議をいただきまして、最終的に付帯決議がつきまして、この中に議会への報告がなく突然の話で、議会軽視ではないかとの指摘がありましたので、これからの動きについては文

教厚生委員会にも機会をとらえてあらゆる情報を流していこうと考えているところです。今回、1月25日に議会の議員方の研究会である全員協議会が開催されるという情報が入りましたので、1月25日に文教厚生委員会の研究会を開いていただきまして、いくつか報告をしたいと議会事務局のほうへ申し入れております。議題、主な項目としては4つございます。先日1月15日に市岡議長へこのような内容をさせていただきたいとお話を教育長にさせていただきましたので、私が同席いたしましたのでその報告をさせていただきます。①1つ目に「小中一貫教育校の特色などについて」でございまして、広田小学校の6年生の教室を広田中学校へ建設する実施計画の予算を議決いただきました後の動き、それと小中一貫校の特色など教育委員会で情報を収集しておりますのでこの件を含め、今度は文教厚生委員会委員が京都と兵庫へ視察にいかれということで、このためのレクチャーをさせていただきたいというのが1点。

②社会教育施設の使用料の免除規定に係る諮問についてということで、先程教育長より報告がありましたが、公民館運営審議会、社会教育委員の会議に諮問をした内容と答申のことについて、これも付帯決議がついてそうするようにとの指示がございましたので、その動きについて方向をさせていただきたいという件

③第二次情報推進計画について、計画の内容について概要を説明させていただきたいということで、平成28年3月に当初予算として情報関連のハード整備の大きな予算があがってまいりますので、整理するうえで情報を共有するためにも計画を説明させていただきたいということです。

④4つめが実際は1月25日研究会で議員方も初めてお耳にされますが、市民会館の存廃についてでございます。25日に明らかになりますので、時期の話は25日初めていたします。

以上4件について教育長のほうから市岡議員の方へされました。これに加えて、12月議会の中で佐世保市議会として教職員定数に関する意見書、35,000人を機械定期に削減するなんておかしい、やめて欲しいとの意見書を出していただきました。全国的にも全国知事会、市長会、町村会、指定都市市長会、中核市特例市市長会など議会会など同じような趣旨の意見書、要望書を出された結果として、今回尾義務教育費国庫負担に係る教職員定数、少子化に伴う4,000人の定数減（自然減）、525人の加配定数の改善を実施することになりましたと御礼のようなメッセージを馳文科大臣から県を通じて市へ送付されました。4件の研究会議題と馳文部大臣の件を議長へ報告されております。この中で、議長から教育長の方へやり取りのなかでのお話については教育長から報告をお願いいたします。

【永元教育長】

1番目の広田小学校の件ですが、29年度ぐらいがピークを迎えるということで、対処療法的な話ではあるのですが、小中一貫校という名称をつけながら、実のある教育をしてもらおうということで、学校規模としては小中学校とも12クラスから18クラスが適正規模校で、若干上下しても地域の特性、事情によって仕方がないという基本的な文科省の見解がございます。市岡議長はよくご存じで、6クラス（中学校へ）行っても、33あるわけで引いても27で、18をはるかにオーバーしていることをこちら側も認めましたら、そうですよねとおっしゃられました。常々、人口動態のこともありますけれど、これで終わりではなく、教育委員会の中で具体的に話す時期をとらえてしてもらおうようにして欲しいとの話がありました。私もそのとおりだと思いますと申しました。いろいろありますので事務方の研究とか分析も必要となってきますので、事務方としても努力をしなければいけないと申しました。とりあえず、15日に11時からお話ししましたので、今日の日には間に合いませんが、目次出しはしておきますと伝えますと、そうしてもらえばとのことでした。新造成の環境は、400戸の造成の分はまだ許可がおりたままになっています。4～50戸の分が2つくらいあって、そこが建てだせば何人分かはわかりませんが、児童

の減少は29年が果たしてピークなのかという話もあり、大変悩ましいところです。そのような話でしたよね。

【大藤総務課長】

はい。これで終わりではないと。教育委員会の中で議論する必要があると議長はおっしゃられました。

【永元教育長】

議長はよくご理解されておいでで、小規模校は目立ってよく統合は進んでいるようだけでもと言われてました。県内でも（広田小は）レアケースなのです。施設の建て方も理論的になりましたので、ざっくばらんな意見交換になりまして、建てるにしても場所の問題もあるが少子化になっていく将来で小学校しか使えない。そのような建て方も今後考えていかななくてはならないと申しますと、議長も同意のご反応でした。土地を買う、造成をする、建てるという一連の年数で5～6年は経ちますので。土地の選定からやって相手が売るかどうかわからないという問題もあります。下調べ、根回し等ありますので全てを考えたうえでの話が非常に難しい話もあります。今のとこと柔軟に進めて、だめだったら戻そうとか、小中一貫がよいねという話になれば5年生もやろうとかという考えも含めていう議長の助言もありましたので、トータルで話していきたいと思います。今回4つのパターンということで考えましたが掘り下げたり、他にないのかを検証しなくてはいけないと考えておりますのでよろしく申し上げます。

【久田委員】

市岡議長さんが新年交歓会の折に、俵ヶ浦半島統合の話、金比良・光海の一貫校の話、広田地区の小中一貫校の話をして理解して欲しいとのお話を、商工会議所役員の方々もおられる席でお話され、教育に関わってお話していただけるのはありがたいことだと感じました。

【永元教育長】

多額の税金をとということになれば一定の道筋をつけて話を進めていかないと児童減少につながっていく時代の中でどうするのかという話もありますので。そのようなことで議長とお約束いたしましたので、継続的な議論を頭にいれておいていただければと思います。そのほか報告はございませんか。

【百津学校教育課長】

2点ございます。今年度の幼・小・中学校の卒業式の出席予定ということで案を出しております。不都合等、また、ここが良いとのことでしたらお知らせください。案の段階でございますので、今後変更等は可能でございますので、よろしく願いいたします。教育委員様方につきましては、退職の校長先生を中心としてはめらせていただいております。卒業式の件は以上です。もう1点でございます。お手元に長崎新聞の切り抜き「水や空」が鏡になっている資料をご参照ください。男児誘拐殺害事件検証報告書になります。1月15日に医療法人五星会出島診療所の所長・長崎大学名誉教授であられます中根氏、それから長崎国際大学人間社会学部の古賀教授、長崎新聞の報道部長の坂本記者が来られました。対応といたしましては、山口副市長、教育長、子供未来部の蓮田部長にご出席の中で、報告書の提出がございました。内容については長崎新聞のほうで掲載が14日まででありました分です。基本は長崎市で起こりました、男児誘拐殺人事件、通称「駿ちゃん事件」の検証の報告でございます。検証しておりました間に今回の県立女子高校生の事件が起こりました、その分も入っている現状でございます。なぜ、事件は起きたのか、事件後の取り組みは十分なのか、そして高1女子同級生殺害事件を受けて、総括、社会へのメッセージの柱の中で書かれている文章になります。主にはやはり「駿ちゃん事件」の中での医療体制、地域とのつながりができていないという話です。少年の両親のあり方も通常の家では考えられないほどユニークであるという表現がなされています。地域の中でも浮いていた、その中で子どもをどのように育てていかなければいけないのか、一般的に発達障害

と保護者はわがままやしつけの失敗といったような世間の誤解・偏見を受けている、その中で社会的な支援が本人や保護者へ届きにくいという状況への指摘がっております。かなりなくなってきた感覚はありますが、やはりまだまだ社会一般の中にはあるのではないかということ等も感じているところであります。内科的なチェックもあるが、専門的なアドバイス、校医とともに医師会の理解や支援が必要ではないかという意見も書かれております。我々も真摯にこの報告書を読んで、今後の施策の中での取り組みの一助としていきたいと考えております。以上です。

【永元教育長】

これに先立ちまして長崎新聞社が事務局的なものを行って行っていましたので、報告書については5回にわたって記事として掲載されて行っていました。来られた方々は非常に真面目に憂いでおいでで、紳士的でございました。どこかを糾弾するというのではなくて、関係機関との連携を含めた社会全体での救済、社会の許容性といいますか、批判、プレッシャーは理解の上に解消していかなくてはならないところを主張して行われました。

25日までは市民会館の件など言いにくいところはあります。13日に経営戦略会議があり、市民会館の件については25日に言おうと思っております。29年度末に合意をいただいて、12月議会の話を受け、28年度末にも対応できるように柔軟な考え方を持つようにと議決を得た後にそのような話をいたしましたもので。また、根底の文化施設については検討するように書いて行いましたが、そこははっきりとは載せず、全体的な地域内での分散、とりあえず数的にはありますので1年間ありますが、例えば相浦地区も700席の施設が建ちます。オーケストラ等の場合は体育施設と兼用しますので、空間の付け方いかんともしがたいのですが、放送設備ではきちんと格が違うものを造ろうと思っております。実施設計は入っていますので、市民文化ホールも完成しましたので、展開はできと思っております。今、市民会館の稼働率がホールに限って言えば30%切ります。アルカスでも利用料はかかるもののできるので、当面お話をしてお話をさせていただこうと思っております。25日待ちになると思っていますので、ご留意願います。それでは教育委員会を閉じます。

■次回開催日

2月18日 9時半開始 11F研修室

——— 了 ———